

瘻孔治療用細胞プラグ

主たる提供特許

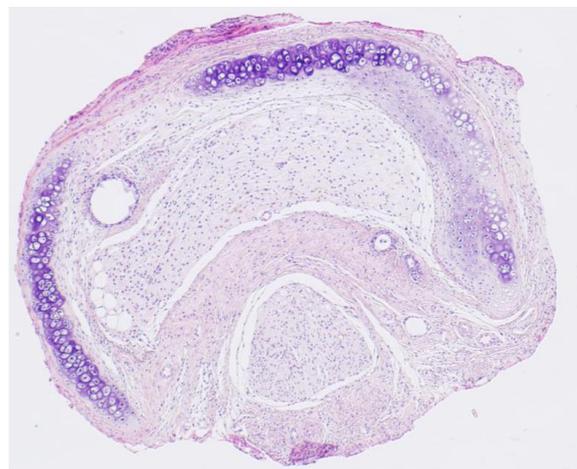
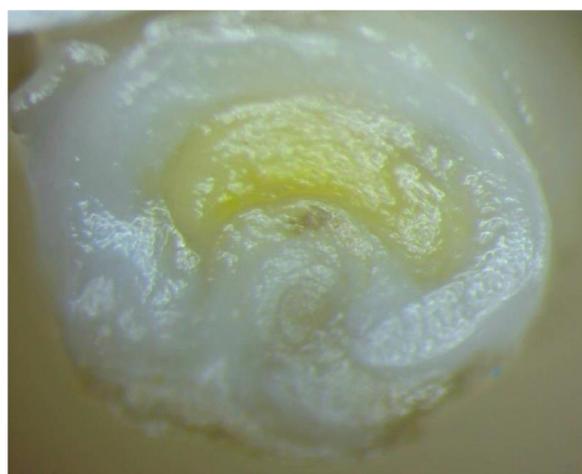
権利者	国立大学法人長崎大学
題名	気管支断端瘻治療用細胞構造体とその製造方法、瘻孔用治療器具
番号	特願2020-162908、特願2020-173401

瘻孔治療用の細胞プラグを開発しました。

技術概要

発明概要

気管支断端瘻とは、がんなどの手術後に気管に穴が空いて空気が漏れる状態になるもので、やがて胸腔に痰がたまりその結果化膿して重篤になる場合があります。この気管支断端瘻は、肺切除後の重篤な合併症として、肺葉切除後の0.5%、肺全摘後の4.5~20%の頻度で起こり、その死亡率は4.5~20%であることが知られています。気管支断端瘻の治療方法としては、手術療法と気管支鏡的治療法に大別され、気管支鏡的治療法は、手術療法と比較すると患者への負担も少なく、全身麻酔も必要としないことから様々な治療法が報告されています。本技術は気管支鏡的治療法を用いて瘻孔に細胞プラグを埋め込むことで細胞の再生を促進するものです。同時に、細胞プラグを瘻孔に確実に運ぶデバイスの開発も行っています。



効果

・市販の気管支瘻用プラグ(EWS)はすぐ抜け落ちて再発する問題がありましたが本プラグはある程度の期間経過後に細胞が再生して孔がふさがることを確認しています。

応用分野

実用化例

- ・気管支瘻孔用細胞プラグ
- ・細胞プラグをデリバリーするデバイス

企業へのメッセージ

共同研究先企業、技術移転先企業を探しています。